

# 卷頭言

常勤顧問 本山 蒔



戦後半世紀に及ぶ今日、日本は新しい政治・経済体系に変換する苦しみの中にある。そ

して「明後問題」として長い経済不況と政治の混沌の下に、近い将来に目に見えて来てい

海洋構造物，港湾構造物などを含めて，各種鉄鋼構造物，基礎構造物，パイプライン等の輸送施設，タンク等の貯留施設等々の建設構造物は，地球上のみならず宇宙空間へと限りなく広がっている。この建設構造物の建設プロセスを簡単に述べると，「計画(設計を含む)」

者と大きく分けて2者があふ 鋼構造物で橋梁及び土木構造物の「計画→新田」はほとんど

どが公共事業で行われ，電力，鉄道や大規模設置産業施設などは公的色彩が多く，建築構造物は公的施設より民間機関や私企業，個人によるものが大部分である。以上のことは，建設プロセスにおける社会的行為において大きな違いがあることから当然である。

製造・設置をする者は，日本においては重機メーカーと一般に言われるが，産業分類的

どがある。

備すべきものとして、平成4年に橋梁・鋼構造事業部を発足させた。エンジニアリング事  
業部のうち技術部の一部は旧鉄鋼工業(株)のエンジニアリング事業部と統合し、